

No	感染症(PT)	出典	概要
88	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(12): 36-39	ニワトリは近くを飛び回るハエを捕まえて食べる習性がある。クロバエ類が鶏舎への高病原性鳥インフルエンザ伝播の一要因であるとする、一般的なイエバエ科の施設内での駆除方法をクロバエ対策に踏襲するのは不十分で、鶏舎内へのハエの侵入を阻止する対策が必要であろう。クロバエ類が通過できない大きさの格子でできた粗めのネットを鶏舎開放部に張るという物理的手段も検討に値すると考えられる。
89	鳥インフルエンザ	第55回日本ウイルス学会学術集会 2007年10月21-23日 216	2007年に宮崎および岡山県で発生したH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザの発生例から分離したウイルス4株の全塩基配列を決定し、また、病原性について調べた。4株は遺伝学的に極めて近縁であり、2005年中国青海湖で死亡した野鳥から分離された系統に属していた。鶏では接種鶏全てが死亡した。50%マウス致死量は5x100EID50であった。またウイルスは接種マウスの肺だけでなく脳からも回収された。
90	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2007; 56(4): 76-79	ID-NATを用いた強化スクリーニング開始以降に、初めて西ナイルウイルス輸血感染症例が報告された。2006年に免疫不全患者2例が、感染ドナー1例(献血時のMP-NATの結果は陰性)由来の血液製品を投与された後、西ナイル神経侵襲性疾患を発症した。今回の例はID-NATは実施されておらず、ID-NATトリガーを促進することが重要である。
91	ウエストナイルウイルス	Pediatrics 2007; 119: e666-e671	2003年以降の授乳中の母子におけるWNV疾患の報告を収集し、全症例を検討した。報告された10例のうち、5例は母乳を介した感染の可能性が除外できないまたは確認できない症例であった。他の5例については血清学的検査により垂直感染が否定された。また、妊娠中に感染した女性の母乳検体を調べたところ、45検体中2例でWNV RNAが、14例でWNVに対するIgM抗体が検出された。母乳を介するWNVの感染は極めて稀ではあるが、更なる研究調査が必要である。
92	ウエストナイルウイルス	ProMED-mail20070809.2583	2007年8月2日、米国カリフォルニア州の3郡(Kern, ColusaおよびSan Joaquin)でウエストナイルウイルスが発生していることに関して知事が緊急事態を宣言した。これら3郡では今年4例が死亡しており、感染は急速に拡大している。前年同期と比較して感染者数は3倍である。中心地はKern郡とされ、州全体での症例数56例の3分の2が記録されている。
93	ウエストナイルウイルス	The New York Times 2007年7月26日	米国におけるウエストナイルウイルス症例数は1年前の約4倍であり、大流行がおこる可能性があるとして政府研究者が報告している。昨年は米国で4,269症例が報告され、この中には1,495例の脳症が含まれ、177例が死亡した。今年はこれまで122症例が報告され、カリフォルニア州と南北ダコタ州で最も多いが、昨年の同時期は33例のみであった。今年は既に脳症が42例および死亡が3例ある。
94	ウエストナイルウイルス	第144回日本獣医学会学術集会 2007年9月2-4日	ウエストナイルウイルスは、近い将来、日本にも侵入する可能性があるため、日本産蚊の室内継代株を用いて増殖・媒介能を調べた。アカイエカ、ヒトスジシマカ、オオクロヤブカでウイルス注入実験を、アカイエカ、ヒトスジシマカで吸血実験をしたところ、全種類の蚊においてウイルスの増殖が観察された。媒介試験では、アカイエカ注入、吸血面群、ヒトスジシマカ2系統の注入群、1系統の吸血群では供試したすべてのマウスが12日以内に死亡し、死亡したマウスからはWNV が検出された。
95	ウエストナイルウイルス感染	Hoy Digital エストレマドゥーラ新聞 2007年3月21日	ABC新聞は昨日、スペイン国内初のナイルウイルス感染者の診断結果を発表した。21歳男性が2004年にバルベルデ・デ・レガネースで蚊に刺され感染した。発見者の研究グループはナイルウイルスの研究を2003年から始め、3年間、病院で検出されたウイルス性脳膜炎や髄膜炎の症例からナイルウイルスを探し求めてきた。
96	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年12月18日	2006年8月9日、北Albertaの農場で牝牛が短期間の神経学的症状を呈した後、死亡した。2006年8月23日、CFIAはBSEであると確定した。カナダにおける8頭目のBSE牛である。死体は確保され、焼却された。どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。このウシはCharolais交雑牛で、死亡時8歳から10歳と推定された。誕生した農場が不明のため、飼料調査は行なうことができなかった。
97	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年2月7日	2007年2月7日、CFIAはAlbertaの成牛はBSEであると確定した。カナダにおける9頭目のBSE牛である。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報ではこのウシは生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
98	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年3月26日	2007年2月7日、CFIAは、2007年1月20日から22日の間に体調不良の後死亡したAlbertaの肉牛はBSEであると確定した。カナダにおける9頭目のBSE牛である。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。このウシは死亡時79月齢の未登録Angus雄牛であり、当該農場で出生し、移動したことはなかった。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。当該農場で出生または生育した593頭について出生および飼料コホートが実施された。